

2016.3  
第28号

一般財団法人 北海道北方博物館交流協会会誌

# 北方博物館交流

*МУЗЕЙНЫЕ СВЯЗИ СЕВЕРНЫХ РЕГИОНОВ*

特集 サハリン考古学の新しい波



# 特集『サハリン考古学の新しい波』刊行に寄せて

野村 崇

本号は『サハリン考古学の新しい波』と題するテーマのもとに、サハリン州における最新の考古学情報を読者の皆様にお伝えすることとした。

巻頭言の石川日出志氏による「考古学者杉原莊介の樺太・遼東行」は、後に明治大学考古学講座の創設に携わり、戦後、わが国の考古学界を牽引した杉原莊介先生の若き日の朝鮮・遼東と樺太の二つの海外調査旅行について、その目的や動機を追求したものである。

A・A・ヴァシリエフスキー、V・A・グリシエンコ両氏による「サハリンとクリール諸島における石器時代・古金属器時代の石材供給源と石材交換」は、二〇〇〇年代に入ってから石油・天然ガス開発に伴う文化遺産保護を目的とした考古学調査によって明らかになったサハリン産のジャスパー類について、サハリンの先史時代を通じて、それらの利用状況を伺うことが可能となってきた。そして、北海道とカムチャツカの黒曜石、地元石材という石材交換の三大構成要素に着目する必要があることを主張する。

オリガ・シュエビナ氏による「サハリン州立郷土誌博物館での展示―クリール諸島の考古学研究史をひもとく―」は、同博物館で二〇一五年三月五日から四月二十五日まで開催された特別展の紹介である。クリール諸島（千島列島）は、戦前から多くの日本人研究者によって調査されたが、今回の展示の特色は、それらの成果を充分に取り込み、さらに戦後に発表された諸文献も活用して展示を再構成したことであ

る。例えば一九二八年から四一年まで国後島の小学校に勤務した村田吾一氏が採集した考古資料をもとに、本田克代氏が協力してまとめた『北海道考古学』第五輯（一九六九）所収の遺跡分布図等を活用するなど画期的な特別展となったという。

同じくシュエビナ氏の「サハリン州立郷土誌博物館調査隊、択捉島での調査を終える」は、二〇一五年九月に行われた択捉島「戦車湖岸の遺跡」として知られる遺跡調査の速報である。

ガルブノフ氏による「アルローヴァ5防御集落遺跡」は、サハリン西海岸の旧日本時代、鵜城（うしろ）と呼ばれた地の新発見のチャシ跡である。文末に西脇対名夫氏の詳細な解説があるので、それに譲る。

プラコフイエフ氏とガルブノフ氏による「南サハリン、オーストルイ岬の防御集落・砦跡」は、すでに『北海道チャシ学会報』三七号にプラコフイエフ氏によって紹介されているが、今回、両氏の再調査による新知見を含めて報告してくれた。なお、本誌の表紙写真は、北から見たオーストルイ岬で、二〇〇九年六月十七日、ガルブノフ氏の撮影である。

本特集の総集として、プラコフイエフ氏による「サハリン州立郷土誌博物館の新しい刊行物」は二〇一二年から一五年までの『サハリン博物館報』や新しい普及シリーズ『サハリンとクリール諸島の自然史』など約四〇本の論文や普及書が紹介されており、有益である。以上、本特集を『サハリン考古学の新しい波』と題した所以である。

## 北方博物館交流28号目次

- ・特集『サハリン考古学の新しい波』刊行に寄せて 野村 崇
- ・巻頭言 考古学者杉原莊介の樺太・遼東行 石川 日出志…1
- ・二〇一五年度の事業報告と二〇一六年度の計画 野村 崇…2
- ・講演録・ウラジオストツク市のレンガ建築 V・A・シャライ…4
- ・サハリンとクリール諸島における石器時代・古金属器時代の石材供給源と石材交換 A・A・ヴァシリエフスキー／V・A・グリシエンコ…11
- ・クリール諸島の考古学研究史をひもとく O・A・シュエビナ…19
- ・サハリン州立郷土誌博物館調査隊、択捉島での作業を終える O・A・シュエビナ…26
- ・アルローヴァ5防御集落跡 S・V・ガルブノフ…30
- ・南サハリン、オーストルイ岬の防御集落・砦跡 M・M・プラコフイエフ／S・V・ガルブノフ…32
- ・サハリン州立郷土誌博物館の新しい刊行物 M・M・プラコフイエフ…36
- ・北海道博物館の開館一周年を迎えて 舟山 直治…38
- ・事務局だより・編集後記…40

# サハリンとクリール諸島における

## 石器時代・古金属器時代の石材供給源と石材交換

ヴァシリエフスキー・A・アレクサンドル／グリシエンコ・A・ヴァイアチエスラフ

福田正宏訳



はじめに

サハリンとクリール諸島の石器時代考古学で一定の研究成果があげられてきたことによって、生産活動、剥離製作、石材、交換などの研究に関する個別の問題に取り組めるようになった。なかでも、最後の「交換」問題に関する議論の伝統／歴史は、一九八〇年代にゴルベフ B. A. Lolyger、ラヴロフ E. I. Jabova 及び木村英明によって開始され、国内外の研究者グループ全体によって継承されてきた（ゴルベフ・ラヴロフ一九八二、木村一九九二・一九九八、グラスコックほか二〇〇〇）。二〇〇〇年代に入り、石油天然ガス開発計画「サハリン」での文化遺産保護を目的とした野外調査の最中に、サハリン国立大学の考古学者たちは、東サハリン山地の原産地における遺跡群、つまり、旧石器時代と新石器時代のジャスパー「現地での呼称を尊重してジャスパー」と訳す。岩石名としては「チャート」とすべきかも

しれない「福田註」類の剥離製作に関わる工房群を発見した。この出来事は、サハリン島石器時代の石材条件「環境」に関して、新たな理解を形成する役目をはたした。以下に、「それに関する」いくつかの見解を示す。

サハリン島の旧石器・新石器時代における石器生産活動の基幹石材には、地元産のものと、外部からの搬入品が含まれていた。地元原石は基本的に、種々のホルンフェルス類、フリント類、硬質で光沢をもつ原石である。サハリンの石器時代遺跡群では、流紋岩・安山岩・玄武岩・斑縞岩・玉髄・珪岩が広く見つかっており、いずれも、サハリンの諸河川の浅瀬で採取することができる。石材は基本的に、拠点遺跡群から半径50〜100キロ圏内で入手された。遺物群の大部分は、地元原石によって製作された。

後期旧石器時代の生産活動において最も重要な石材の補給「方法」であり、また、前期新石器時代にもつ

と高い水準に達したのは、石刃主体の道具組成の製作に充てる珪酸塩鉱物「石材」の搬入であった。互いに遠く離れた領域間における石材交換の存在が、更新世後期の

完新世初頭の極東島嶼・半島世界―北海道・本州・サハリン・モネロン島・礼文島・利尻島・クリール列島・カムチャツカ

の考古学における顕著な現象となる。この問題については、多くの発表がある（木村一九九二・一九九八、ヴァシリエフスキー一九九六、グラスコックほか二〇〇〇、クズミンほか二〇〇二、フィリップス・スピークマン二〇〇九）。黒曜石と大なり小なり関係した生

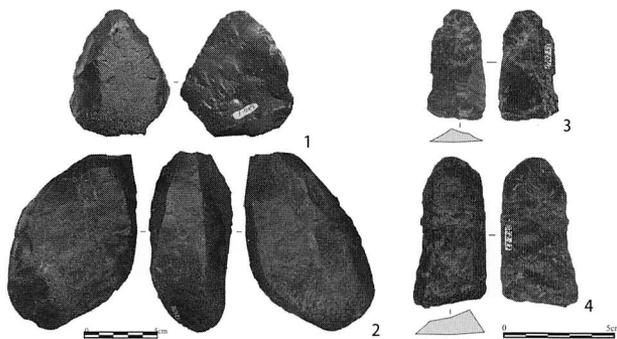


図1 東サハリン山地ジャスパー原産地発見の旧石器遺物  
 1 単独発見のスクレブロークリブ川2 (П. B. カシツウん採集) 2 傾斜した打面を備え側面に平行剥離痕のある小口型石刃石核。ヴォシイ5遺跡表面採集 (以下、3・4ともA.A.ヴァシリエフスキー採集) 3 中型の石刃片、ヴォシイ5遺跡表面採集 4 縁辺に使用による損耗のある長手の石刃片、ヴォシイ5遺跡表面採集

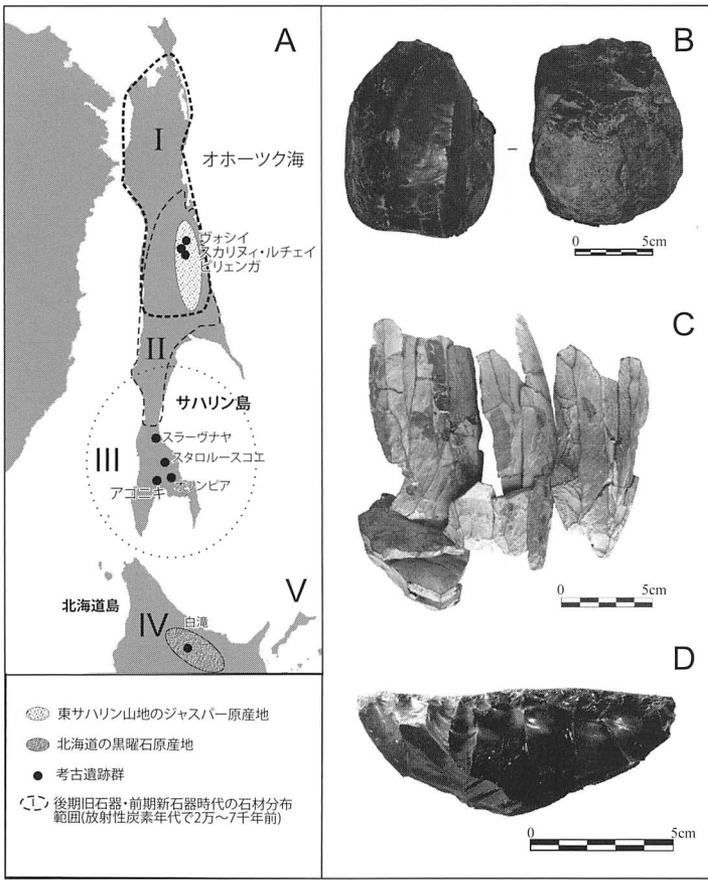


図2 A サハリン・東北海道・南クリールにおける石材分布域 (I~V) と、本稿で言及する後期更新世~完新世初頭の遺跡群の位置 B 赤色のジャスパー類を用いた石核 (ヴォシイ5後期旧石器遺跡、A.A.ヴァシリェフスキー採集) C アゴニキ5後期旧石器遺跡のヴァシリェフスキーによる発掘区で出土した玄武岩製石核の接合資料 D 黒曜石製の石核 (スタラルースカヤ3後期旧石器遺跡、A.A.ヴァシリェフスキー採集)

東サハリン山地のジャスパー  
 ポロナイ Поп  
 онай川、トゥ  
 イミ Тамб川  
 そしてナビリ  
 Набил川の  
 流域を含んだ  
 サハリン中部  
 において、石  
 器時代の生産  
 活動の主な石  
 材となる濃赤  
 色・緑色・黄  
 褐色のジャス  
 パー類は、東  
 サハリン山地  
 の岩体や地域  
 のほとんどの  
 河川床に堆積  
 した巨礫や小  
 礫として、広  
 く認められる。

サハリン国立大学考古学・民族学研究  
 室のチームが二〇〇一~二〇〇九年に  
 実施した調査では、ナビリ山脈とメジ  
 ドウリエチヌイ Междуречный山脈の  
 支脈にある種々のジャスパー産出地と  
 結びつく、後期旧石器~新石器時代の  
 工房・狩猟用野营地遺跡群「の存在」  
 が明らかにされた。二〇〇二年は、グ  
 リシエンロフ В. А. Гривченко・ペレ  
 グッドフ А. С. Перевуров・塚田直  
 哉・チヨベリェフ Д. В. Ченевら  
 らなるサハリン国立大学のグループに  
 よって、この地方で初めて、石材生産  
 用の工房遺跡—クリフン Кривун、  
 そして、石器時代の一時的な狩猟用野  
 营地遺跡—ナビリ本流 Правый На  
 бил 1 「の存在」が明らかにされた。  
 二〇〇六年は、ベルセニョーヴァ E.  
 B. Берсенева、シチューン C. B.  
 Шубин、アリファノフ В. Р. Алиф  
 анов (ロシア科学アカデミー古生物  
 学研究所) からなるサハリン国立大学  
 とロシア科学アカデミー古生物学研究  
 所の合同グループが、ドゥニチフ B.  
 M. Дуничевが途中参加した際、ヴォ  
 シイ Восы 2・3 遺跡の存在を明ら  
 かにした (ベルセニョーヴァ二〇〇七、  
 モジャーエフ二〇一〇)。また、ナビ  
 リ山脈の鞍部にあたるトゥイミ川流域  
 とナビリ川流域の分水嶺上で、カシ

つめとして、地元原石に対する決定的な役割が認められた。その役割は、黒曜石流通がピークに達する先史時代各期においてさえも維持されており、黒曜石製品の遺物はごくわずかなる。ふたつめとして、北海道の黒曜石材に対する目的指向性が認められた。このことは、依存性を生じさせる、何

か特別な理由があったことを強く示している。「サハリン州の」鳥々の遺跡群 (スラーヴナヤ Славная 5・ソコル Sokol 1・アゴニキ Огоньки 7・ユージナヤ Южная 2 遺跡、クリール諸島の遺跡群) におけるそれら「黒曜石」[志向の]「遺物群の「存在」には、北海道やカムチャツカの主要原産地と

の間での非常に緊密な連絡関係が表れているのだろうか。

以上にもとづき、サハリンのジャスパー、北海道とカムチャツカの黒曜石、そして、交換取引の場では重要な役割をはたさない地元石材という、石材交換の三大構成要素に着目しておこう。

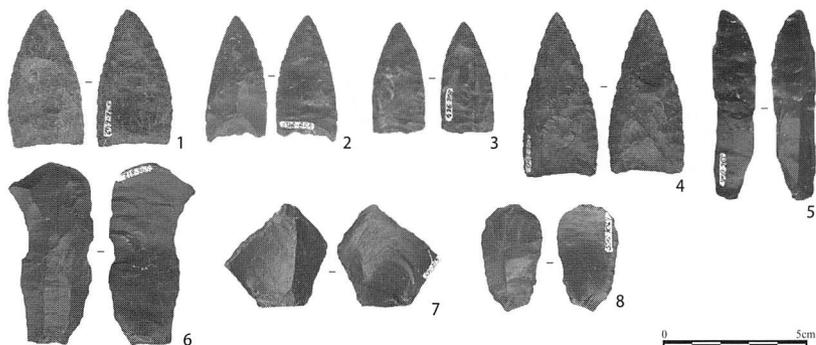


図3 B.A.グリシェンコが2005年にプガチョーヴォ1前期新石器遺跡で発掘したジャスパー系遺物群。1~4 投射具の先端 5 中型の石刃素材の刺突具 6・8 搔器 7 剥片素材の石器

ツウソウ II. B. Kamnush がとても不思議な遺物―考古学的には非常に古くみえるジャスパー製のスクレプロ(図1―1)を発見した―これは、「クリブン川、単独発見の遺物2」(サハリ

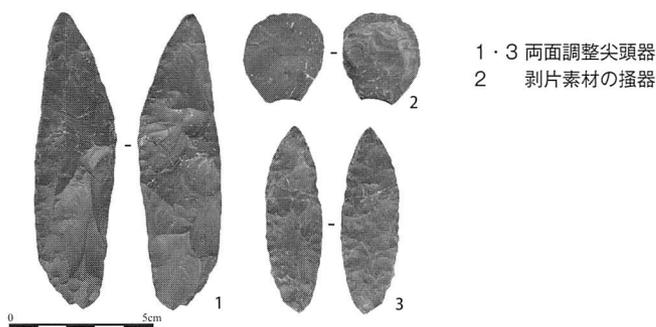


図4 レヴィ・ルチエイ式遺物群の石製遺物(濃赤色のジャスパー類)。レヴィ・ルチエイ2集落跡第2地点における2011年のB.A.グリシェンコの発掘。

ン国立大学考古学教育博物館資料番号 670 : коллекция № 670, YAM (CALTU) という名称で、遺跡台帳に登録されている。二〇〇六―二〇一〇年には、サハリン国立大学のグループ

1・3 両面調整尖頭器  
2 剥片素材の搔器

された。このような素材―選択された河川礫群や巨礫の中心部―を用いることで、工匠たちは、山火事の影響を受けて素材中に亀裂が入った岩体の外皮部や、それと同質の「質のよくない」

が、同山脈の北斜面と南斜面で、石器時代の工房・狩猟用野営地遺跡群―スカリスイ・ルチエイ Ckapañ hahñ pyueñ 1、ヴォシイ 4~6、プリエンガ Ilune Hra 1 遺跡(ヴァシリエフスキー二〇〇六、モジャヤーエフ二〇〇九・二〇一〇)―を発見して調査した。

基本的に工房遺跡は、数多くの地点で岩山のように「地表に」露出した岩盤、つまり残丘と一体化することが、調査によって明らかにされた。ただし石核素材としては、岩盤の板状節理が発達した箇所ではなく、大型円礫の中心部、あるいは「土地に固定されて動かない」ステーション・コア―山の斜面の至る所で見られるジャスパーの巨礫や残丘―から削り取った巨大な岩片が、しばしば利用

後期旧石器・前期新石器時代(放射性炭素年代で2万~7千年前)のサハリン―北海道―クリール諸島地域は、石材と、それに関係する遺跡群のグループから、五つのまとまり(地方

巨礫を避け、不良品の割合を抑えていたと思われる。彼らはこの時点で、実際のプリフォームをすでに予測しており、円礫は、それらのなから、均整のとれたひとつ、特に、剥離製作の結果を予測可能な石刃素材が選択された。拠点遺跡群は、文化層が保存される旧石器時代の工房遺跡―ヴォシイ5と同名の「ヴォシイ」川流域に分布する。遺跡における出土品の圧倒的多数は、デビタージュ、プリフォーム、作業が途中まで進んだ石核や破損した石核、石刃の破片、再利用された稜付き削片、失敗作などである。ただし、使用痕を残す製品もあり(図1―3・4)、それは、社会共同体「ソツイウム」が石材「獲得」地域に長期滞在したことを示唆する。ほかの工房遺跡から持ち込まれ、その後の剥離製作に備えた未製品と推定される石核に残された礫表皮は、注意をひきつける(図1―2)。

石器時代における石材の動き(サハリン・北海道・クリール諸島・カムチャツカ)

に区分される。それらは、次の通りである。

I. 濃赤色のジャスパーの搬入をともない、明色のフリントや珪藻土岩を求め「サハリン」北部

II. 東サハリン山地のジャスパー類原産地に対応するサハリン中部

III. 北からはジャスパー、南からは黒曜石を受容するサハリン南部

IV. 基本的には5ヶ所の主要原産地と、10ヶ所の補助的原産地の黒曜石を求め、その一方で、石英や安山岩など、地域特有の地元原石をも求める北海道

V. 今のところ、択捉島のオリーヤ  
Оля湾とヤンキトー Янкто川に面した約7千年前に位置づけられる遺跡群の時期のみが調査されているクリール諸島

ここ「クリール諸島」では、黒曜石製の単独発見遺物と一緒に、地元のボグダン・フメリニツキー Богдан Хмельницкий 火山麓—玄武岩台地の火成岩による遺物が発見されている。二〇一三年一月一日現在、クリール諸島に関しては、実際のところ、炭素年代で7千〜7千500年前より古い時期の確実な情報がない。上記の時代に関して、石材をめぐる状況は、カムチャツカや北海道の状況と共通したはずだ

と想定するしかない。

サハリン南部の後期旧石器時代の標式遺跡—放射性炭素年代で1万9千500〜1万7千800年前(ヴァシリエフスキー二〇〇三・二〇〇八、ネルソンほか編二〇〇六)となるアゴニキ5では、その道具一式のなかにジャスパー材で製作された単独遺物が存在しており、それらは、旧石器時代終末と新石器時代初期に相当するとみられる上層部から出土している。ユジノサハリンスク近郊に位置する旧石器時代後期・終末期の遺跡、オリンピヤ Олимпия 5でも、この遺跡と状況はおなじである。

1. 暦年代で9〜8千年前(ヴァシリエフスキー二〇〇八、グリシエンコ二〇一〇・二〇一三、ヤンシナほか二〇一二)の「サハリン」島内において、前期新石器時代の生産活動にともなうジャスパー類の利用・分布領域は、次のように区分される。

2. 生産・最大限利用される領域—ナビリ山脈とそれを開析するトゥイミ・ナビリ川流域。ナビリ山脈の原産地に水源をもつ河川流域(ヴォシイ・ピリエンガ Пиренга・フブ Хума川、そして、ナビリ川とその支流)を通じて大河の流域の遺跡群(アド・トゥモヴォ Ад-Тумово 2 遺跡、ナビリ

1 遺跡)にいたるジャスパー系石材の天然移動経路を示すと考えるのが、もっとも適している。

3. 安定供給される領域。この領域は、ナビリ山脈の原産地から直線距離で南に300キロ(プガチョーヴォ Пугачёво 1 遺跡・図3、ポリエチエ Попелье 4 遺跡)、北に140キロ(ヴァル Ван 8 遺跡・アンドロポフほか二〇一二)まで、前期新石器時代に拡大した。この領域のジャスパー類は、他種の石材と一緒に使用されており、そのうち「もともとも遠い」領域の端にある遺跡では、おおむね30%の比率が求められる(プガチョーヴォ 1 遺跡二〇〇五年発掘区では27・9%)。

4. 変則的「補助的に」に利用される領域。「サハリン」島北部の両海岸(オドプトウ Одопту 2、フンマクタ Хунмакта ほか)、トゥイミ川下流域(イムチン Имчин 1・2、レヴィ・ルチエイ Левый ручей 2)、また、島南部(スラーヴナヤ Славная 4・5、アジヨールスク Озёрск 5)に居住する集団の一部は、フリント・玄武岩・黒曜石という別の石材を、それぞれ求めた。これらの「遺跡」資料のなかで、ジャスパー類は、単発的に見つかるか、あるいはまったく見つからない。

サハリン北部の中期新石器諸文化—レヴィ・ルチエイ式、宗仁文化、チャイボフ Чайво 6 式、イムチン文化、さらにそれらと並行関係にある遺跡群—では、紀元前4〜5千年紀に、ジャスパー材の利用状況が大きく変わる。この時期のジャスパー類は、シユミット半島からポロナイ川流域までの島北部全域(レヴィ・ルチエイ 2 遺跡第一・二地点・図4—7、ヴェンスコエ Вэнское 4・図5、チャイヴォ 6 遺跡第2地点、イムチン 2・12 遺跡、ナビリ 1 遺跡ほか)において、石材の主なものとなり、島の南部にも浸透する(スラーヴナヤ 4 遺跡第三発掘区・図6)。

サハリン島の後期新石器・古金属器時代の遺跡群(紀元前1〜三千年紀)では、新石器時代の先行する段階に比べてジャスパー材の比率が下がり、トゥイミ川、ナビリ川とそれらの支流沿いの、原産地から直接搬出しやすい地帯の比率は、依然として高いままである。この命題は、紀元前一千年紀の晩期新石器時代伝統にある遺跡群の石材利用に関する統計数値にもとづき、論証される。トゥイミ川流域で調査が行われたヤースノエ Ясное 8 遺跡では、石製人工遺物総数の94・2%という、ジャスパー材の最大利用が確認さ

れており、その一方、「サハリン」島北東海岸の集落遺跡—カシカレバグシ Kaskalebaghi 5 でのジャスパール類の比率は、わずかに 4.5% である。島南部の縄文文化圏の遺跡における生産活動をみると、ジャスパール類は実用化されておらず、ここでは黒曜石が支配的であった。

サハリンの石器時代全般を通じて、フリント、凝灰岩、玄武岩、その他の産出地未特定の原因石、そして北海道の黒曜石は、ジャスパール材の自然の競争相手となつて出現した。サハリン島の遺跡群から出土した黒曜石製人工遺物に対するこれまでの自然科学分析によれば、北海道島の原産地（置戸・白滝（赤石山・幌加沢）・白滝（幌加沢・八号沢・あじさい滝））は、古代サハリン居住者にとつての黒曜石産出地の役割を、まさに担っていた（グラスコックほか二〇〇〇・九九〜一〇六頁、クズミンほか二〇〇二・七四一〜七四九頁）。古代サハリン住民の黒曜石材の産出地からの直線距離は、島南部で約 4.25 キロ（スラーヴナヤ 4.5）、また北部（オドプトゥ Odrity 2）で約 1 キロに達した。前期新石器時代社会共同体の生産面における黒曜石材の比率は、さまざま要因によって変動する。まず第一に、原産地までの地

理的な近さがある。サハリン島の様相をみると、スラーヴナヤ 5 遺跡で人工遺物全体の 50.1%、道具類全体の 52.4%（手斧・石斧・叩き石・漁網錘・磨製）棒状石器を除くと 65.3%）、そして石核全体の 84.8% が、これ「黒曜石」である。もちろん、それらは、島南部に位置し、前期新石器時代伝統に属するサハリンの限られた遺跡群の諸特徴であり、それら「の存在」は、前期新石器時代の島における生産活動にともない、黒曜石材が独特なかたちで最大限利用されたことをあらわす。

ふたつめの伝統「ジャスパール系原石の浸透する地域」に属する遺跡の場合、スラーヴナヤ 4 遺跡は約 30%、プガチョーヴォ 1 遺跡は 5.1% となり、道具一式のなかで黒曜石の比率はかなり低くなる。原産地から約 1 キロ離れるが、島北部（オドプトゥ 2 遺跡）でもまた、前期新石器時代遺跡の道具一式のなかに、ごくわずかな例ではあるものの、黒曜石が存在する。黒曜石の道ができた背景には、細石刃生産活動と石刃剥離製作のため、黒曜石に対する意識が高まるという、消費者特性があった。サハリンの亀裂の多い「節理の多い」ジャスパールは、黒曜石ほどには細石刃の剥離製作に適していない。それゆえ、後期旧石器・前期新石

器時代のジャスパール利用は、局地的な意味をもっていた。紀元前七千年紀と同六千年紀の境界期になると、石刃技法から、石刃ではなく剥片の入手を目的として多面石核を用いる剥離製作へ、と移行する—それにともない、黒曜石の交換は価値が失われ、そうした北方への動きは急速に縮小した。その代わりに、ジャスパールやほかの地元原石の価値が高まったのである。

同様に、新石器時代と古金属器時代の境界期における黒曜石交換の急速な活発化にも、注意があつまる。我々の考えによると、これは、古アイヌ系グループ—縄文後・晩期と縄文期の文化伝統の担い手—によるサハリンへの移住・拡散と関係する。この時期における黒曜石の拡散は、アニワ湾・ラベルズ「宗谷」海峡（ユージナヤ 2、遠淵／ムラヴィヨーヴォ Myrabovo、クズネツォーヴォ Kuznetsovo 1 からネフスコエ「多来加」湖（フェドルチュク B. M. Федорчук が発見した「サーバドナヤ Zardana」遺跡群）まで、さらには最北部（リュウギ Jorgi、カシカレバグシ 5 など）までの広域に及んだ。

## 討論

「以上で」検討してきた地域における二大石材産出地—北海道の黒曜石鉱床群と東サハリン山地のジャスパール帯—間の相違に注目したい。北海道の黒曜石鉱床群の「埋蔵」数量には限度があり、おそらく、各時期に特定の社会共同体が管理していた—このことは、彼らが早くに専門化したことを推測させる。サハリン南部の細石刃生産活動にとつてはやや貧弱といえる地元石材基盤は、北海道の黒曜石により、十分に補填された。サハリン中部・北部では石材を搬入する大きな必要性がない—ここは主に、自前の資源で賄われていた。だが、ジャスパール原産地はあまりにも大きいため、それら「のジャスパール」は、特定の社会共同体による管理対象とはなりえず、必要とする集団や個人が自由に接近できる状態にあった。細石刃技術が発明されてからは、良質の石材による石核が限界まで使用されるようになった。製品「類」は通常で、工匠たちが無用と判断して廃棄したもの、極限まで使い込まれたもの、あるいは失敗したもの、あるいは技術上のプロセスを中断しないうれかの状態で放置されたもの、に分類される。したがって、石核の個別「の形状」や中間段階にある型式を分類する

のではなく、技法自体を分析可能な剥離製作の技術連鎖全体を、存分に復元することが課題となるではないか。この要点において、サハリン中部の工房遺跡の研究は、北海道産火山ガラスの生産活動の研究に劣らず意義がある。IKIP「国際千島調査」計画の一環として、アメリカの考古学者たちがクリール諸島で、可搬式デジタル分析計を用いて行った、とても見事な黒曜石研究（フィリップス・スピークマン二〇〇九）は、地域考古学者による今後の研究活動に、方針と方法を示した。よって、こうした装置を長期的に利用し、GIS技術によるデータベースを構築することが、石材や交換に関する今後の研究の発展のために、唯一明確な進路となる。それが、古代島嶼社会の生活における重要な局面を理解するための、真の科学的基礎をつくり出すのである。

## 文献と出典

1. アンドロポフ・ゴルブノフ・ロシ「ヴァル8遺跡と細石器技法の起源問題」『サハリン州立郷土博物館報告』第一九号、ユジノサハリンスク、同館、二〇二二年、四一―四一六頁。

2. ベルセニョーヴァ「サハリン州トウ

イモフスキー地区ヴォシイ川上流部の踏査」『二〇〇五年考古学の新発見』モスクワ、ナウカ、二〇〇七年、四二―四二二頁。

3. ヴァシリエフスキー「サハリンと北海道の後期旧石器・前期新石器時代（2万〜7千年前）における生産、予備処理、石材の動き」『シベリアと隣接地域の考古学、民族学、人類学の諸問題』ロシア科学アカデミーシベリア支部考古学・民族学研究所二〇〇六年・年次集会資料集一二巻第一部、ノボシビルスク、同所出版部、二〇〇六年、三一―三五頁。

4. ヴァシリエフスキー「サハリン島の先史・原史についての覚書」『郷土誌研究紀要』第一号、ユジノサハリンスク、一九九六年、五四―七九頁。

5. ヴァシリエフスキー「サハリン島の石器時代」ユジノサハリンスク、サハリン書籍出版、二〇〇八年、四二二頁。

6. ヴァシリエフスキー「アゴニキ5集落遺跡の研究からみたサハリンと北海道の上部旧石器時代の時期区分」『ユーラシアの考古学・民族学・人類学』ノボシビルスク、ロシア科学アカデミーシベリア支部考古学・民族学研究所出版部、二〇〇三年、

第一五巻三号、五一―六九頁。

7. グラスコック・シャクリー・クズミン・ポポフ・ゴルブノフ・ヴァシリエフスキー・シューピナ・ザイツェフ・佐藤宏之「サハリンの考古遺跡群出土黒曜石の地化学とその産出地」『ロシア極東の火山ガラス―地学及び考古学的様相』ウラジオストク、二〇〇〇年、八八―一〇七頁。

8. ゴルベフ・ラヴロフ『石器時代のサハリン』ノボシビルスク、ナウカ、一九八二年、二四〇頁。

9. グリシェンコ「サハリンの前期新石器時代」ユジノサハリンスク、サハリン国立大学出版部、二〇一一年、一八四頁。

10. グリシェンコ「サハリンの前期新石器時代―時期区分の問題と各時期における特徴の構成」『サハリン国立大学インターネットジャーナル―科学・教養・社会』一号、ミシコフ責任編集、二〇一三年。

11. モジャーエフ「スカリヌイ・ルチェイ工房遺跡」『第七回高等教育機関科学・実践会議「サハリンの青年と科学」資料集』ユジノサハリンスク、サハリン国立大学出版部、二〇〇九年、二七九―二八〇頁。

12. モジャーエフ「東サハリン山地のジャスパール原産地の石器時代遺跡

群」『国際シンポジウム「北東アジア大陸部及び島嶼部の人類による最古の開発」（ユジノサハリンスク、二〇一〇年九月一八―二五日）研究論文集、ユジノサハリンスク、サハリン国立大学、二〇一〇年、一九〇―一九二頁。

13. ヤンシナ・ゴルブノフ・クズミン「サハリンの前期新石器時代について―アド・トウイモヴォ2遺跡―」『ロシアとアジア太平洋地域』二〇一二年第二号、ウラジオストク、二〇一二年、三一―四九頁。『黒曜石の流通と消費からみた環日本海北部地域における更新世人類社会の形成と変容（I）』（福田正宏訳、東京大学、二〇一二年、一〇―二八頁）に全文和訳有り。

14. ネルソン・チエレヴィアンコ・クズミン・ブランド・編『ロシア極東の考古学―石器時代先史学論集―』英国考古学報告国際シリーズ1540、オックスフォード、アーケオプレス、二〇〇六年、一五一―一六六頁。〔英文〕

15. 木村英明「湧別技法の再検討と幌加遺跡遠間地点の石器文化」札幌大学、一九九二年。〔英文と和文〕

16. 木村英明「黒曜石、ヒト、技術」『更新世の古生態学と北アジアと隣接地

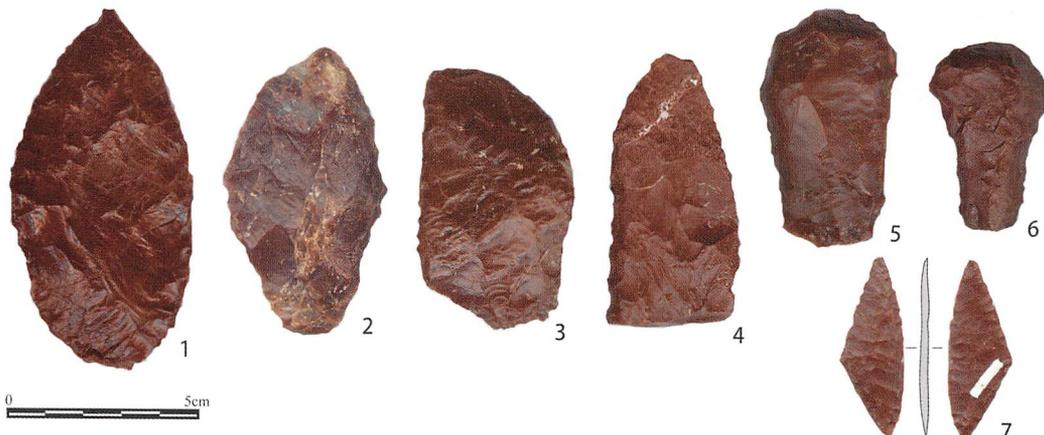


図5 宗仁文化の石製遺物（濃赤色のジャスパー類）。ヴェンスコエ4集落跡（北サハリン）。  
B.Д.フェドルチュク採集。1～4 両面加工のナイフ状石器 5・6 搔器 7 投射具の先端

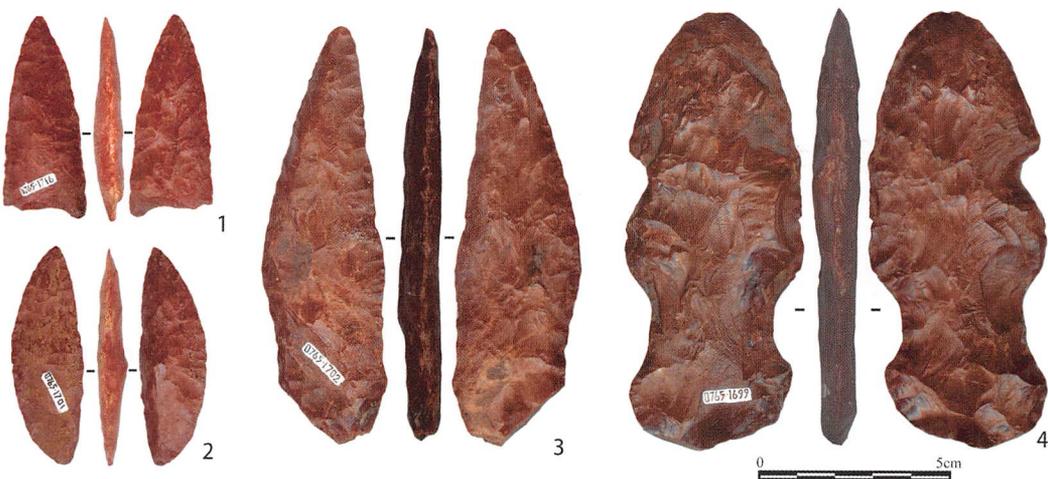


図6 宗仁文化の石製遺物（濃赤色のジャスパー類）。スラーヴナヤ4集落跡（南サハリン）。  
2006年のB.A.グリシェンコの発掘区（第3発掘区）。1 投射具の先端 2・3 両面加工のナイフ状石器  
4 両面加工の「折り畳み式」ナイフ

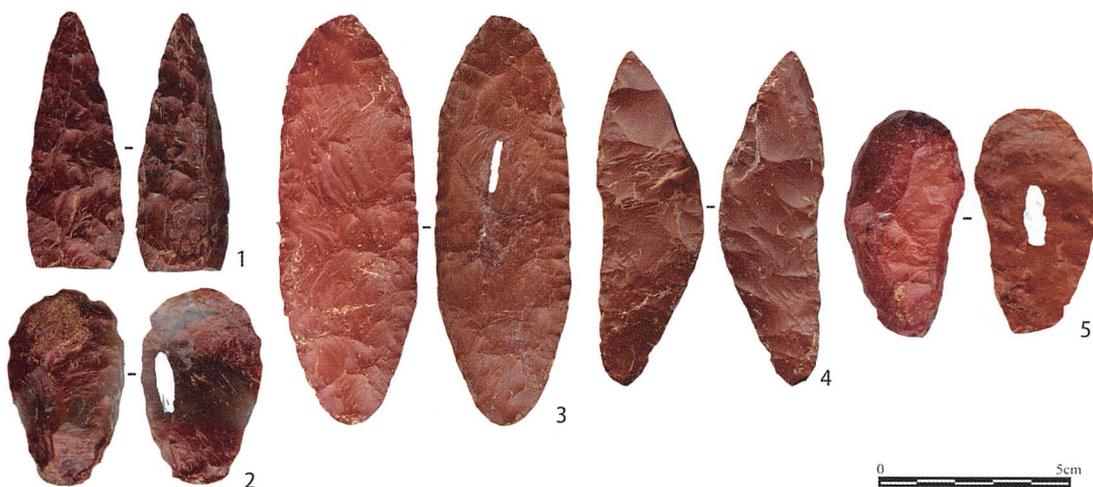


図7 イムチン文化の石製遺物（濃赤色のジャスパー類）。レヴィ・ルチェイ2集落跡。  
2011年のB.A.グリシェンコの発掘（第1地点、第1発掘区）。1 投射具の先端 2・5 搔器 3・4 両面加工のナイフ

域の石器時代諸文化』国際シンポジウム資料集第二巻、ノボシビルスク、ロシア科学アカデミーシベリア支部考古学・民族学研究所、一九九八年、三〇二～三二四頁。[英文]

17. クズミン・グラスコック・佐藤宏之「サハリン島(ロシア極東)の考古資料中の黒曜石の原産地」『考古学雑誌』二〇〇二年、二九巻七号、二〇〇二年、七四一～七五〇頁。[英文]

18. フィリップス・スピークマン「可搬式蛍光X線分析装置を用いたロシア極東クリール諸島の考古資料中の黒曜石の主要産地の推定」『考古学雑誌』三六巻七号、二〇〇九年、一二五六～一二六三頁。[英文]

## 訳注

この記事はロシア科学アカデミー極東支部附属極東諸民族歴史・考古・民族学研究所 Институт истории, археологии и этнографии народов Дальнего Востока ДВО РАН がウラジオストクで発行する雑誌『ロシアとアジア太平洋地域』Россия и АТР の二〇一四年2号一四一～一四二頁に掲載された論文の翻訳で、原

題は「Сырьевые центры и сырьевой обмен в эпоху камня и палеометалла на Сахалине и Курильских островах.」である。今世紀に入って原産地が確認されたサハリン産ジャスパール類について、先史時代を通じてその利用状況を窺うことができる文献であり、原文は同誌のウェブサイトで公開されている。  
<http://www.ritar.ru/index.html>

ここでは、東サハリン山地北部に所在する、石器素材に適した赤色のジャスパール(チャート)の堆積/原産地を基点とした、先史時代の石材供給システムの存在について、指摘されている。また、北海道産黒曜石の供給システムに関する近年の研究動向がふまえられ、サハリンと南クリールにおける石材環境研究の課題と展望についても、言及されている。当地における今後の先史社会研究の方針を定める重要文献のひとつである。サハリン島における近年の研究動向をまとめた次の論文とあわせて読むと、本論文の位置づけは、より明確になるだろう。

福田正宏「サハリン・アムール流域」『北海道考古学』第五〇輯、二〇一四年、一三四～一五〇頁。

原文と対照していただければわかるが、石器に関する術語は、次のように翻訳した。

原石 порода  
岩体 коренное залегание  
岩盤 коренная порода  
技法 технология  
原産地 месторождение  
工房 Мастерская  
生産 добыча  
産出地 источник  
石材 сырьё  
生産活動 индустрия  
遺物群 комплекс  
剥離製作 расщепление  
デビタージュ дебитаж  
フリント кремль  
プリフォーム преформа  
ジャスパール яшма  
ジャスパール系 яшмовидный  
ジャスパール類 яшмовид  
交換 обмен  
道具一式 инвентарь。

石器製作に関連する用語は森先一貴(文化庁)、夏木大吾(東京大学)両氏、岩石名は足立達朗氏(九州大学)と相談した上で、福田が邦語を選択した。翻訳は福田が西脇対名夫(北海道教育委員会)の意見も参考に行い、西脇が表記の最終調整を行った。

翻訳と転載について著者のお二人と同研究所から御承認をいただいたこと、また図の調製のため著者のお

二人から新たに画像の提供をいただいたこと、さらに研究所への承認申請に際して学術担当副所長のイリーナ・セルゲエーヴナ・ジュシホフスカヤ博士 Жушыховская, Ирина Сергеевна に御仲介いただいたことに深く感謝申し上げます。

今回の特集の訳文を通じて、訳文中の( )は原注、「」が訳注を意味する。文中の固有名詞は、日本語としてほぼ固定していると思われる都市名(ユジノサハリンスク、ノボシビルスクなど)を除き、できるだけロシア語の発音に近い形で、カナ書きするよう努めた。

縦組み部分の数字は伝統的な和語及び漢語表現のほか序数(年号、月日、巻号、ページ数その他)に漢数字を使い、純粋に数量を示すものに算用数字を使うことを原則とした。遺跡名末尾の数字(「スラーヴナヤ5」など)は序数の表現ではあるが、固有名詞の一部であるので原文のまま算用数字としている。算用数字は2桁のもののみ組み文字とした。また桁数を示す漢数字は算用数字と組み合わせて千・万の位を示す際のみ用いた。